

森林

森林を取り巻く現状

森林は、国土の保全や水源のかん養、地球温暖化の防止などの公益的機能を有し、私たちが安全で安心して暮らせる社会を支えるとともに、再生可能な資源である木材の供給を通じて、山村地域における循環型産業を創造することが期待されています。

こうした多面的な機能を永続的に発揮させるためには、林業生産活動を通じて、森林を適切に整備し、健全な森林として次世代に継承する必要があります。

本市の森林状況

鹿屋市の森林面積は約2万3千haで、総土地面積に占める割合は約51%となっています。この森林のうち、国や県、市などが管理する国有・公有林は約4割程度で、残りの6割が個人や会社などが所有する民有林です。

森林には、スギやヒノキなど木材生産を目的として人が植樹した人工林と、主に自然の力によって育った天然林に分けられます。本市における人工林の割合は62%となっており、他の地域と比べて高いのが特徴です。(全国平均41%、県平均49%)

この本市の約半数を占めるスギ・ヒノキの人工林の多くが利用期を迎えており、今後、大型木材加工施設や木質バイオマス発電施設、海外への木材輸出等により、木材需要が増加し、人工林の伐採量は大きく増加することが予想されています。

一方で、木材価格の低迷による整備意欲の低下や、林業従事者の減少などにより、手入れが行き届かず放置された人工林が増加し、公益的機能の低下が懸念されています。また、人工林の多くは、整備を行うために必要な林道や作業道の整備が困難な状況となっていることから、市では、国、県、森林組合などと連携して、森林再生や林業振興を図っていきます。



Before
林内に光が差し込まない人工林。下層植物が育たず、木の成長も悪く、災害等の原因となり森林の多面的機能は低下する。



After
間伐など整備が行き届き、太陽の光が根元まで届く理想的な人工林。さまざまな低木や植物が生い茂り、表土の流出を防ぐ。

増加する木材の需要

新たな木材利用

新たな建築資材として注目されている繊維方向が直行するように積層接着したCLT（直行集成材）の実用化に向けた取組が進められています。



※CLTは十分な強度を有する合成材で、ヨーロッパを中心に大型施設や中層ビルなどで使用され、生産量を伸ばしています。

木材輸出

近隣の志布志港より東アジアへの木材輸出が行われています。



木質バイオマス発電

生産活動で発生する木くずを発電の原料として利用。資源の安定的活用が行われ、持続的な林業経営の確立が図られます。現在、本市からも木質バイオマス発電燃料が搬出されています。



森林は木材やキノコなどの生産の場のほかに、渇水や洪水を緩和しながら水の育成、土砂災害の防止、地球環境の保全など、さまざまな恵みを与えてくれます。そして、「森は海の恋人」といわれているように、豊かな森林が川を介して豊かな海を育みます。川の上流域の山を保全することが川の下流域に暮らす人々の暮らしを守ることもつながり、こうした森林資源をよりよい状態で次世代に引き継ぐためにも森林の整備を進めることが重要です。

今回は、森林の抱える課題や豊かな森を取り戻そうとする取組を紹介します。

市農林水産課 ☎31-1117

未来につなぐ森林づくり

登見の丘からの風景

森林の役割

- その1 **水を守り、土と山を守る**
葉や木の根、地面に落ちた腐葉土などに水を蓄えることで洪水や土砂崩れを防いでくれます。
- その2 **地球の大気を守る**
空気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を排出することによって、地球温暖化を防いでくれます。
- その3 **生物の多様性を守る**
微生物から高等生物まで多種多様な生命を支え、貴重な遺伝子資源を守ってくれます。
- その4 **林産物を供給**
木材や紙の原料、山菜などの食料、薪や炭といった燃料など、さまざまな産物を供給してくれます。
- その5 **快適な環境をつくる**
さまざまな汚染物質や騒音を吸収し、景観を保ち、都市の温暖化を緩和してくれます。
- その6 **人に安らぎを与える**
森林浴や散策、レクリエーションの場として、人に安らぎを与えてくれます。
- その7 **文化を伝える**
伝統芸能を支え、環境・自然教育の場を提供してくれます。



高隈山に流れる小川。森林に降った雨はミネラルを含んだ水となり、海まで流れていく。